

中国化学会 第35回年次総会（重慶）参加報告

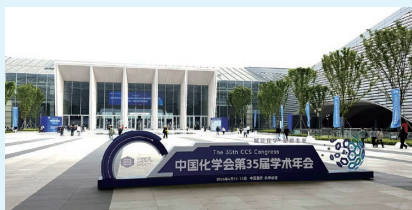
はじめに

4月11日から14日にかけて、中国・重慶のScience Hall Chinaにおいて中国化学会第35回年次総会（The 35th CCS Congress）が開催され、日本化学会から丸岡啓二会長および筆者が招待を受け出席した。以下に概要を報告する。

概要報告

本大会は隔年で開催される中国最大級の化学分野の学術集会であり、「Empower Chemistry for a Transformative Future」をテーマに掲げ、各国から多数の化学関係者が参加する国際的な会議である。今回は約1万5000名以上の参加者を集め、中国における化学研究の発展とその規模の大きさを強く印象づけるものであった。

初日の4月11日には開会式が開催さ



中国化学会第35回年次総会会場



開会式の様子



丸岡啓二会長（左）と Li-Jun Wan 会長（右）

れた。式典には IUPAC をはじめ、米国、カナダ、英国、フランス、ドイツ、イタリアなど各国化学会の会長、幹部が参列し、国際色豊かなものとなった。国歌斉唱に始まり、開会挨拶および来賓紹介の後、IUPAC 会長および重慶市関係者による祝辞等が行われた。続いて学会賞授与式が執り行われ、中国化学会青年化学賞、基礎教育賞等の受賞者が紹介され、楯が授与された。

授与式に引き続き4件の招待講演が行われた。

同日に「CCS-CSJ Meeting」が開催され、中国化学会会長 Li-Jun Wan 氏と丸岡会長との会談が行われた。本会談では、両学会の連携強化および研究者交流の促進について意見交換がなされ、特に若手研究者の交流や国際会議における協力など、今後の協力の方向性について有意義な議論が行われた。さらに、2028年に予定されている日本化学会創立150周年事業への協力についても意見が交わされた。

その後、VIP デイナーが開催され、各国化学会関係者との懇談を通じて、国際



両会長を囲んで

的な学術交流の深化に向けた関係構築が図られた。

おわりに

今回の訪問を通じて多くの中国の研究者と交流する機会を得ることができた。中国の化学研究者のコミュニティの規模の大きさとアクティビティの高さを実感する貴重な機会となった。初対面の挨拶の際には、日本の慣習により持参した名刺を手渡したが、中国では近年、WeChat アプリを用いた情報交換が主流となっており、QRコードを提示して連絡先を共有する場面が多く見られた点が印象的であった。デジタル化が日本以上に進展していることが実感された。このたびは、中国化学会との関係強化および国際連携の促進の観点から極めて有意義な機会であった。今後もこのような交流を継続し、我が国の化学コミュニティの国際的発展に寄与する必要性を感じた。

〔鈴木慎一（常務理事）〕

© 2026 The Chemical Society of Japan